

発寒ひかり  
保育園だより

2021年  
10月号

巻頭言

我が家の2歳半の息子は、「ジブンデ！」「コレシタイ！」と、自己主張がますます強くなってきました。思うようにいかないとひっくり返って大騒ぎ。登園直前に「○○ジャナイ！」と怒り出すことは日常で、はじめは穏やかに声をかける私も、「もういい」と感情的になり、余裕のなさを反省する毎日です。当園では、イヤイヤ期を『独立宣言期』と呼んでいます。1歳を過ぎた頃に芽生えた自我が、2歳頃には強く大きく育ち、自分の気持ちが明確になってきます。「（これは）イヤ！（これがいい）」「○○チャंगा！（じぶんでやりたい）」と、全身で自分の意思を表現するようになります。「もう赤ちゃんじゃないよ」「こんなこともできるようになったよ」と、自立への小さな一歩を踏み出したメッセージのようにも感じます。

児童精神科医の佐々木正美氏は、著書「子どもへのまなざし」の中で、「育てるといふことは、私は待つことだと思っております。（略）待つてあげる姿勢は、子どもを十分信頼しているという気持ち伝えることにもなります。このことは子どもへの愛を、子どもにもっともわかりやすく伝えることになるのです。」と、記しています。

子どもにとって『大人が待つてくれた』経験は、自分を受け入れてもらえる喜びや、人を信頼する気持ちを育みます。そして、ありのままの自分でいいのだという安心感にもつながります。気持ちが落ち着くのを『待つ』、できるようになるのを『待つ』。「ゆっくり待つているから、心配しなくていいよ」というまなざしを大切にできる母親、保育者でありたいと思います。

とまとファミリー・ひよこ組担任 青山 伊津美